

ライダーズ・イン・ザ・スカイ 第99号

新潟県中央工業高校（旧三条工高）山岳部OB会発行 2022.9.20

1 OB会は 弥彦山頂で 10月22日（土）に開催します！

OB・現役親睦 弥彦山登山と山頂で総会

- 9:00 弥彦商工会駐車場集合・出発
表参道登山道を自由登山
- 11:30 弥彦山頂大平園地
高頭仁兵衛寿像碑前に集合
(山頂御神廟ではありません。)
総会 記念撮影・昼食
- 12:30 解散 (悪天だと早くなるかも…)
<補足> 9:00 弥彦商工会駐車場で合流 ok
11:30 別ルートから合流も ok
ロープウェイで合流も ok
自動車で合流 ok
家族連れ大歓迎！



昨年のOB会の様子

申し込み：出席の有無を10月18日（火）まで、いずれかの方法で連絡してください。

- ① 同封のハガキ ② ホームページのメールボックス ③ OB会グループLINE

今年も集まりましょう

OB会会長 廣瀬 守彦（H07年卒）

毎年恒例の山岳部OB会総会 in 弥彦山を開催いたします。皆さんお誘いあわせの上、ご参加をお待ちしております。

OBの皆さんと近況報告等ができることを楽しみにしております。

私事ですが11月上旬に岐阜県奥美濃にて開催される『OMM JAPAN 2022』山岳マラソンレースに参加のため、トレーニングを兼ねて、昨年が続いてOB会総会へは人力チャレンジ（燕市⇔弥彦山）で走って参加したいと思います。当日往復35kmを一緒に走ってくれる方大募集!!

2 役員は以下のとおりです

会長	廣瀬守彦（H07）	事務局住所・返信受け取り、総会担当
事務局長	川村浩貴（H19）	総会担当
次長	吉田光二（S46）	ライダーズ作成・発送・会計担当
顧問	斎藤 勲（S41）	アドバイザー

3 OB会会計報告（2021年10月～2022年9月）

収 入		支 出		
費 目	金 額	費 目	金 額	摘 要
前年度繰越金	459,183	通信費	51,684	送料・葉書他
入会金	0	運営費	2,400	消耗品・HP運営他
総会残金	0	総会費	0	
預金利息	2	現役助成	13,200	Tシャツ作成
		慶弔費	1,048	祝電
収入合計	459,185	支出合計	68,332	
		収支残高	390,853 円	次年度へ

繰越金の内訳：普通預金 390,853 円

4 部にプラティパス 新入部員にTシャツをプレゼント

6月16日、広瀬OB会長が部のミーティングルームを訪れて、久住先生にプラティパス、新入部員にTシャツを贈呈しました。(現状は1年3人、2年3人、3年1人、顧問3人)

セレモニーの後、山の登り方や楽しさについて部員たちと懇談して激励をしました。



久住先生にプラティパス贈呈



新人にTシャツプレゼント



部員たちと懇談して激励

5 山岳部報告 立山夏山合宿 8月18～20日 (OB会HP掲示板に掲載)



8月18日から20日にかけて、夏山合宿で立山に行ってきました。

コロナや大雨による中止が続いていたので、じつに3年ぶりの合宿です。

1年生2名、2年生2名、顧問2名の6名での合宿でしたが、生徒は全員はじめての2泊3日山行となりました。

8月18日 雨

立山駅からケーブルカーとバスを乗り継ぎ、室堂へ。

室堂駅で雨具を着て、水を汲んで雷鳥沢のテマ場まで歩きます。

テマ場は雨と強風で、生徒はなかなかテントを立てることができませんでした。

何とか飛ばされることなくテントを立て、顧問が火の面倒を見ながらの夕食となりました。

8月19日 晴れ

予定では雄山、大汝山、別山と周り、雷鳥沢を降りる行程でしたが、

昨夜の雨と夜中の冷えなどを心配し、大汝山のピストンに切り替えて出発しました。

生徒のうち1名が体力に心配があり、彼の様子を見ながら進みます。

一ノ越山荘からの岩場で挫けそうになっていましたが、何とか諦めることなく登り、雄山山頂までたどりつくことができました。(もう限界ということなので、大汝は諦めました)

昨日と打って変わって良く晴れてくれたので、素晴らしい景色に皆感動しながら登っていました。

下界の景色、遠くの山々、雲、いずれも経験の無いものでした。特に立山の景色には、日本にこんなところがあったんだ、と呟っていました。

8月20日 雨

午前の早い段階から大雨の予報となっていたこともあり、雨に当たる前に撤収し、帰宅することにしました。

メインザックで室堂駅まで戻る1時間は疲労もあり、だいぶ応えたようでした。

細かなトラブルなどもありましたが、生徒にとっては良い経験になったと思います。今後安定して活動ができるようになることを期待しています。

顧問 久住公彦



6 川村芳夫さんへ渡辺五郎さんから思い出投稿

前回のライダーズNo.98 に昭和 49 年卒の川村芳夫さんが、笠堀ダムを訪ねて思い出を綴った「嵩上げた笠堀ダムを訪ねて思ったこと」と題した文を投稿されました。それを讀んだ感想が掲示板に投稿されましたので掲載します。

川村芳夫さん、昭和 46 年の夏山二次合宿の思い出とともに笠堀の近況報告、ありがとうございました。ダムのかさ上げで水平道が上に移動したとお話、私が訪れたのは 1967 年で昭和 42 年になり、あれから周辺は変わったんですね。

その時は 3 年生。山日記によると 9 月 30 日から 10 月 1 日、「秀峰山岳会山小屋建設協力」のタイトルで、山岳部で行きました。

ダムから観光船光明丸に乗り水平道の奥で下船、石小屋沢近くの広場にブナの木を切り倒し小屋を作りました。

斜面の上のブナを切り倒し、それを滑り落とす作業は危なっかしく怖かった記憶があります。

誰の許可を受けたか分かりませんが、ブナの木を切ってできた二日がかりの小屋は三角のテントの形となりました。

今では時効ですが、帰りの光明丸で秀峰山岳会の方からウイスキーを少し飲まされました。近くに高橋先生が居られたはずです。

同じ年の 10 月 28 日～29 日は、日記タイトルは「石小屋沢俎岩」、初日は土曜日の午前の授業を終えて行ったので、作ったばかりの石小屋沢の小屋については暗くなっており、二日目は俎岩に向かいシルバーザッテルからの下降に成功して、「三工尾根」と名付けました。

その後も後輩たちが続けてそこに入り三工尾根の下降をしていたのですね。

例のメジロの思い出です。9 月末の小屋建設の時は、笠堀川で汗を流すのに入ったらメジロが集まってきて私が水中に潜って、浮いても頭の上を飛んでいました。

この年は山岳部の山行を含めて 50 日近く山を歩き、目いっぱい高校生活を楽しみました。

今でも山歩きは頑張っていて続いています。今年も山スキーを含めて 35 日、もう少し歩きます。

川村さんの投稿のおかげで古い日記を開き、笠堀の思い出に浸りました。

2021 年 11 月 23 日 昭和 43 年卒 渡辺五郎 (工業 3 回生)

7 北海道遠征 2022 (OB会HP掲示板から転載) S43 年卒 渡辺五郎

幌尻山荘に行く 7 月 25 日 (快晴)

前夜は平取町、豊糠にある「とよぬか山荘」に泊まる。

宿泊客は私を含め 7 名、第 2 ゲートと呼ぶ北海道電力の専用道の前までシャトルバスを運行しており、私以外は 4 時発のマイクロバスに乗り込み、天気の良い初日に登頂しようとしている。

8 時の二番バスは私と女性陣のガイドツアーの団体が乗り、第二ゲートを 8 時 50 分に発ち幌尻山荘に向かう。



渡渉

幌尻山荘

北電の林道をブヨに悩まされながら 2 時間近く歩いてから額平川の右岸を暫く進み、渡渉の繰り返しが始まる。幸い深い所で膝上、トレッキングポールを使いながら慎重に進む。

30 代の頃、夏場は各地の沢登りを楽しみ、黒部の上ノ廊下を歩いた頃を思い出す。

1 時間半くらいで沢歩きを終えると額平川の左岸に立つ幌尻山荘に到着する。

午後 1 時 25 分に幌尻山荘着。夕方まで山荘の前でのんびり過ごす 5 時前後に山頂を目指した人たちが降りてきたが皆疲れた様子だ。沢水を煮沸して明日の飲み水の準備。夕食を済ませ床に就く。

幌尻岳 (2052M) 7 月 26 日 (晴れ)

3 時 45 分、林の中は暗いのでヘッドライトを使い歩き始める。

今朝、山荘から山頂を目指すのは私が一番。単独なので、熊鈴を鳴らしたり、時々ホイッスルを吹いたりし、ここに人がいるぞ！と、音を出しながら登りを続けるがだんだん面倒になる。

北海道の山でヒグマに襲われた登山者は聞いていないし、登りに夢中でそれを忘れるようになる。



チシマギキョウ



幌尻岳

2時間近く歩くと稜線に上がる。この稜線は幌尻岳にある3つのカールの一つ、北カールの縁になり森林限界を超えて冷風を受けながら、花の咲く稜線を歩くようになる。
カールの中でエゾジカの群れが草を食べながら獣道を移動している。
7時50分、日高の最高峰、4年前から目指していた幌尻岳に到着する。
好天に恵まれて大雪の山々から遠く雲の

上に羊蹄山が見えるが他の山名は残念ながら、判らない。
山頂一番乗りと考えていたが、すでに新冠側から4名到着しており挨拶を交わす。
長居は出来ない。今日の内に麓に降りなければならないのだ。しっかりと山頂からの眺めを記憶して下山を始める。
幌尻山荘で大休止（あまり早くバス停に着くとブヨに悩まされる）、再び渡渉と林道歩き、汗をかいた体に林道でブヨの大群がまとわり続ける。バックパックの背あては汗がたっぷりなのでそこにもブヨがまとわりつく。
4時25分、第二ゲート着。ブヨを払いながらバスを待つ。

樽前山（1022M） 7月28日（晴れ）

前夜は支笏湖畔から7合目の登山口駐車場で車中泊。苫小牧のイオンで買った缶ビールを飲み弁当を食べると眠くなる。

5時前に歩き出し火山地形の関係ですぐに森林限界。1時間とかからず溶岩ドームを囲う外輪山に着く。
外輪山の東山が1022M、西山が994Mで左回りに歩き続ける。山は低いが風が程よく気持ちよく歩くが、溶岩ドームかガスが大量に出ていて怖く感じる。



溶岩ドーム



支笏湖と恵庭岳

9時に下山。ここからニセコに向かうが、途中の白老で2年前にできた国立アイヌ民族博物館、ウポポイに寄る。入館時に手渡された案内に「ウポポイ 民族共生象徴空間」と表記されていた。
アイヌの人達の歴史、1700年代からの和人と交易、搾取された側、酷使された記録等を学ぶ。
この国立の施設は、アイヌ文化の復興と発展の拠点として位置づけられ、差別のない多様な文化を持つ活力のある社会を作るための象徴とされている。
ここで知ったこと、カムイ「神」に対してアイヌの意味は「人」、そしてウポポイとはアイヌ語で「（おおぜい）で歌うこと」という意味…。

シャクナゲ岳（1074M） 7月29日（晴れ）



神仙沼

シャクナゲ岳はニセコ連山のほぼ中央に位置している。
北側の共和町に神仙沼と呼ぶ高層湿原の中にエゾアカマツで囲われた池があり、秋の紅葉期は人気のハイキングコース。ここから駐車場から歩く。
冬のニセコ山スキーの下見として出来るだけ夏場も歩き、地形を研究するようにしている。



シャクナゲ岳山頂

神仙沼を過ぎると深い身の丈を超える笹の中を歩く。暫くすると低灌木となるが風が無く暑い！ 山頂でやっと微風を得る。
ニセコの山は東西に連なり、シャクナゲ岳から西は目国内岳、雷電山、岩内山。東はチセヌプリ、ニセコアンヌプリ、いずれも1200~1300Mの標高、積雪期は無木立の斜面が待っている。

2月にシャクナゲ岳を目指したが、ガスのためにこれなかった。

8 「山と溪谷」の俳句・短歌欄が終了しました S41年卒 齊藤 勲

介護から東の間離れ里山へ 緑の風にしばし安らぐ

これは期せずして登山雑誌の山と溪谷の俳句・短歌欄の最終号で入選第1席になった作品です。

いままで一から十まで耳を澄ませ、手助けし、注視していた母が脳梗塞で入院していなくなり、余裕たっぷりの毎朝です。

介護とはこんなに大変だったのかとあらためて思っています。

山と溪谷の俳句・短歌の掲載も8月号で終了しました。「介護」の短歌入選で終了となるのも私の人生を象徴しているようです。

思えば高橋先生の「自分史」刊行の年(2008年)に始めた俳句、短歌、紀行文の投稿も93作掲載をもって打ち止めになりました。

特に俳句については高橋先生の本を土台に季語の勉強をしたのが今は懐かしい思い出になりました。

別紙の一覧表中、

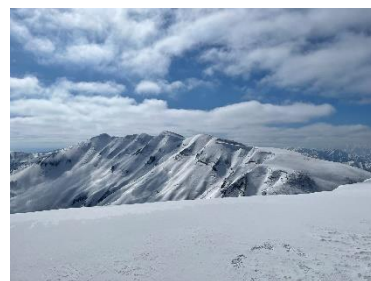
2017年4月号の短歌 地熱あり噴気漂う妙高山の マグマの息吹きが我が身を包む

については「先生のケルン」と入選がダブリ、編集部に掲載はどちらかを捨てるように言われ、泣く泣くカットしたものです。

別紙の一覧表を参照ください。

9 OB会のグループLINEへの投稿から

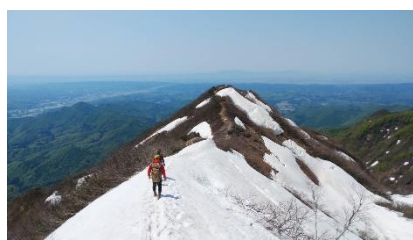
4月2日 新潟IHの翌年に卒業した高井です。コロナ禍以降から角田弥彦に登るようになり、ここ半年では色々な山に登っています。今日は守門の大岳に登りました。6割くらいの方がスキーで下山なさっていましたよ。時間に余裕があれば山頂付近でアマチュア無線の移動運用もしています。テントを購入したので今年は北アルプス縦走を目論んでおります。どこかの山でお会いした際は宜しくお願い致します。H26年卒 高井裕也



4月9日 先週、国上～角田山まで縦走してきましたが、11時間かかり疲れしました。キクザキイチゲ、雪割草、カタクリなどたくさんの花を見られました。S54年卒 阿部孝幸



4月24日 昨日、秀峰山岳会ではアイゼン、ピッケルワークの練習で朝6時から角田山灯台コースの岩場歩行、その後、銀山平へ移動し適当な斜面で雪上訓練しました。卒業して43年経ちますが滑落停止は体が覚えているものですね。ゴールドデンウィークは西穂高岳に行く予定です。S54年卒 阿部孝幸



5月4日 地元の仲間と粟ヶ岳登ってきましたよ。

先輩の子供たち小2の男の子、小4の女の子も長靴で登りきりました！
天気も良く素敵な休日でした～ H17年卒 齊藤圭太

5月3日 秀峰山岳会の春山合宿で西穂高岳に向かっています。今日は西穂山荘まで。天気が良くロープウェイは観光客でいっぱい。気温は0

度ですが日が当たって暖かく感じます。
西穂山荘にて焼岳と乗鞍岳です。天気
いいけど気温4℃風が冷たい☀

S54年卒 阿部孝幸

5月4日の西穂高岳です

メンバーの撮影した写真をご覧ください。

西穂山頂にて片手にピッケル、赤いフリースが阿部。前方のを男性は75歳。高齢者ばかりですがパワフル。

12本アイゼンで岩稜歩きは足が疲れしました。

S54年卒 阿部孝幸





5月14日 訳あって曇天にお邪魔して来ました。本日の曇天です。生憎の天気です。周りは何も見えず仕舞いでしたが、清水集落のあちこちに残雪

がたっぷりありました。S49年卒 熊谷善和

5月29日 三条工高を卒業して43年になりますが、山岳部時代に吉田先生や先輩と登った弥彦の滝ノ沢を見てきました。入口のF1は倒木や草、苔だらけでした。当時、逆層の滝で苦戦したことや大滝でアップ・ダウンしながら練習したことを思い出します。秋になったら巻機山のヌクビ沢を登ろうと思っています。滝ノ沢入口F1の写真です。S54年卒 阿部孝幸



6月13日 夕方いつものトレーニングで弥彦山へ。往復1時間20分、まあまあタイム。H07年卒 廣瀬守彦

7月18日 先日、巻機山に行ってきました。卒業前の合宿以来だったので、巻機は雪上訓練で合宿していた印象が強く、1年生のちょうど今頃の時期に巻機山で合宿がありましたが、私は法事のため設営指導に来ていたOBの方に学校まで送っていただいたため夏道は歩いたことがありませんでした。池塘やお花畑のような雰囲気もあり、だいぶ印象が変わりました。山は季節で全然表情が違いますね。今の巻機山の家も見ってきました。H25年卒 高橋将汰



7月28日 苗場山に行ってきました。祇川から山頂ピストンのコースを生徒4

名で登りましたが、1名は最後の急登手前で断念、3名は山頂まで辿り着けました。雨予報で雷も心配でしたが、登山中は天気が味方してくれ、むしろちょうどいい気温で登ってきました。山岳部顧問 久住公彦



昨年のOB会以降の里山徘徊記録
S46年卒 吉田光二

良い相棒(?)に恵まれて、1時間程度で登れる里山を歩いています。

- 10月19日 ○吾妻小富士
 - 1月10日 弥彦山山麓
 - 1月23日 大崎山
 - 2月12日 弥彦山山麓
 - 4月1日 ○三条市月岡たぬき山
 - 4月18日 ○三条市道心坂千本桜林道
 - 4月25日 ○三条市姫ノ城山
 - 5月2日 ○三条市月岡たぬき山
 - 5月5日 大崎山
 - 5月10日 ○三条市三王山古墳群
 - 5月17日 ○加茂山
 - 5月25日 ○高城山
 - 6月3日 ○八木ヶ鼻
 - 6月4日 三条市月岡たぬき山
 - 6月12日 弥彦山
 - 6月17日 ○護摩堂山
 - 6月26日 守門・キビタキ小屋
 - 7月24日 猿毛岳
 - 8月22日 護摩堂山
- 印は宇佐美元顧問同行

9月5日 今年の山行記録 天候不順で中止が多くありました。

- 2月 弥彦山スカイラインスキー
- 4月 国上山・弥彦山・角田山縦走
- 5月 西穂高岳
- 6月 奥胎内～頼母木山
- 8月 角田山の岩登り

S54年卒 阿部孝幸

10 OB会ホームページ

掲示板ID：
パスワード：

今現在、1,266の投稿をカウントしています。
会員名簿にもアクセスできます。

11 OB会グループLINEもあります

現在46名が登録してそれぞれが随時書き込んでいます。写真も簡単に掲載できます。

右の吉田のQRコードで登録してください。グループLINEに誘導します。



編集：吉田光二 S46年卒 090-4943-5927